

日本ユニシス

地域の課題解決を強化

仮想商店街構築に協力

地域銀などと連携加速

日本ユニシスは、金融機関が取り組む地域活性化活動の支援を強化していく。少子高齢化など地域社会が抱える課題を、「戦略的パートナー」として地元金融機関とともに解決するのが狙い。北国銀行が中心となっている地域版仮想商店街構想ではシステム環境整備で協力。非金融事業で培ったノウハウ活用で、金融機関との連携を加速する。

同社は12年度から「公共」の3事業部門「融」を中心に、全社横「報通信技術」サービス「金融」「製造流通」間の垣根を撤廃。「金」断で自社のICT(情報拡大を図ってきた。

オープン勘定系システム「バンクビジョン」の採用行に留まらず、同社の活動は徐々に浸透。鹿児島銀行の取引先がクラウド型ドライブレコーダーを採用したり、大垣共立銀行が電気自動車の充電システムを導入するなど実績も始めている。

同社では、これらの活動を「ネクスト・ユーズ・ビジョン・プロジェクト」と名付け、さらなる拡大を目指している。具体的には、北国銀行が中心となってNTT西日本などと構

築する地元企業を対象にした仮想商店街構想に参加。システム環境整備をサポートするほか、決済機能提供や人の動きをセンサーで感知する「高齢者見守りサービス」なども同構想の中で有効と判断している。

また、新潟県の佐渡島で地域医療連携ネットワーク開発にも参画し、医師不足などの課題解決を支援。そこで蓄積した知財を、他地域の金融機関や自治体と共同で活用することも視野に入れている。